

プシケおおたニュース

2023年 8月号 NO.45

◆法人の理念◆

「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」
～私たち(プシケおおた)は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、
当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します～

◆運営方針◆ 職員行動指針;

- ① 当事者中心
- ② 自己決定
- ③ 権利擁護
- ④ 啓発
- ⑤ 協働
- ⑥ 創造
- ⑦ 研鑽
- ⑧ Win-Win



池上本門寺 平和の鐘

今年度から理事として仲間に入れていただきました。

新理事 濱洋子

介護保険制度が始まった2000年に地域の仲間とNPO法人を立ち上げ小さなデイサービスを蒲田本町で始めました。生協の食材で作った食事、じっくり取り組める趣味活動、楽しみな外出。送り迎えの運転も初めは自家用車を自分で運転して行いました。10人規模のデイサービスはその後5年ごとの改定で様々な加算が医療専門職配置でないと取れないものとなり、採算が難しくなりました。並行して2006年から運営を始めた訪問介護(ヘルパーの派遣)、居宅介護支援(ケアマネジャーによるケアプラン作成)、そして障がい者の相談支援(計画相談等)事業も加え、デイサービスは泣く泣く閉所しました。通っていただいた利用者から様々なことを教えていただきました。現在、訪問介護は介護保険の高齢者サービスより障がい福祉サービス障害児・者の方々のほうが多く利用いただき、ケアマネジャーとして担当する利用者も障害福祉サービスと併用している方が多くいます。現在全体運営の立場から事業の管理者、ケアマネジャーとして一歩引きながらかわりを続けています。

介護保険法と障害者総合支援法はほとんどのサービスにおいて考え方の違いがあり、保険料も利用料、給付についても、使われる用語さえ違い、制度の在り方が全く違います。

介護保険制度は40歳以上の国民から保険料を徴収し、まかなわれています。
ん？皆さんご存じでしたか？

40歳以上の仕事をしている方は給料明細に介護保険料が引かれていることが小さく記載されていますが、高齢者の年金からは「天引き」がされています。

介護保険法第1条で「～加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、(中略)その有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け(中略)国民の保険医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。」(下線浜)とうたわれています。

共同連帯を皆さんがいつしたのか？2000年に施行されていますのですでに23年たちます。

始まった2000年、大田区の17所得段階により介護保険料基準額は月3,070円。年間で36,800円。保険者＝区市町村により保険料設定は異なります。2023年の現在は基準額月6,800円。年間72,000円の介護保険料を多くの皆さんから「協働連帯の理念」のもと徴収されています。保険者として運営する責任のある区から皆さんはどのようにこの保険料がどのように徴収され、上げられてきたのか詳しく説明をもらったことはありますか？

私は23年間この保険制度による給付で賃金をいただきながら過ごしました。ですから毎月、毎年払っている保険料が「共同連帯の理念」でより良く使われるよう、利用者が権利として制度を使えるよう、いつもいつも保険者＝大田区の動きを見ていくように心がけています。

プシケに参加することにより、65歳を迎えて介護保険制度にサービスを切り替えなければならない方々の支援の場面でも、私の経験やいつもの心がけが役に立つことを願っています。



2022年度 事業報告

こうじや生活支援センター・かまた地域生活支援センター

相談事業及び地域活動支援センターI型事業

登録者	こうじや生活支援センター：177名 かまた生活支援センター：230名									
相談事業	基本相談(件)	面接	電話	訪問	同行	専門相談	連絡調整	ケア会議	生活支援	
		こうじや	418	2,529	109	44	16	3,423	67	1,529
	かまた	456	2,317	158	42	8	4,114	77	1,996	
指定特定相談	計画相談件数：こうじや125・かまた197 計画作成数：こうじや112・かまた104 モニタリング件数：こうじや392・かまた299									
指定一般相談	地域移行件数： こうじや4 ・かまた3 地域定着件数： こうじや3 ・かまた2									
オープンスペース	開所日数：こうじや163日・かまた148日、 利用者数：こうじや1,762人・かまた2,225人 1日平均利用者数： こうじや12.5人・かまた15人									
行事（参加者数）	こうじやハロウィン（12名）、こうじやウォークラリー参加、こうじやセンター祭り中止 餅つき交流会中止									
夕食サービス	こうじや・かまた実施中止									
生活サポート	利用者数：こうじや15人・かまた4人、 従業時間：こうじや406分・かまた664分									
地域交流・プログラム等	実施回数：こうじや94回・かまた131回、 利用者数（延）：こうじや532人・かまた285人									
ボランティア	実人数：こうじや2人・かまた6人、 延人数：こうじや43人・かまた38人									
実習生受入	PSW実習生：こうじや7人、かまた2人									

<こうじや生活支援センター>

2022年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、来所は少なかったが、できる所からプログラムを行っています。

利用者の親御さんの高齢化に伴う相談や、訪問看護事業所から家族関係の相談など、多くの関係機関と連携しながら一緒に考える事が多く、計画相談と地域活動支援センターI型の在り方を検討する機会となりました。

念願だった「こうじや きょうだい会」を立ち上げることができ、まずは皆さんの今の気持ちをうかがうことが出来た。また、会の内容をおたよりとして発行しました。

職員が困った時に一人で悩まずにまず他の職員に話をし、問題だけに目を向けずここからどうしていくかを検討しました。

<かまた生活支援センター>

2022年度は昨年に引き続き週3日のオープンスペース開所を継続し、感染者発生などでオープンスペースを閉所することなく無事に運営できました。利用者からの希望で、しながわ水族館へ外出プログラムも実施しました。

新たに福祉見聞録という電子ソフトを導入し、記録の電子化を行いました。そのため事務の効率化が促進され、残業時間も減少することができました。また法人内で情報セキュリティBCPを作成し、情報の危機管理を職員1人1人がより意識しながら業務に取り組んだ1年となりました。

こうじやセンターとは両センター会議を必要に応じて適宜開催し、共に地域活動支援センターや基本相談に力を入れていく方針としました。計画相談の機能強化型の指定について検討を重ねた結果、収支的にも業務内容的にも難しいという結論に至りました。地域移行支援については、地域からの依頼が増えていることもあり、利用者・地域の皆様や医療機関・支援機関と連携しながらより力を入れていきたいと考えています。

地域生活安定化支援事業

支援総件数	2771件	地域移行	1550件	地域定着	1221件
支援実人数	123人	ショート	延べ66日	ショート	人数27人

地域生活安定化支援事業は大田区の補助事業で、①退院することに自信を無くしている方の意欲喚起、②退院に困難を抱える方の退院支援③退院後、地域で不安定な状況で生活されている方の地域生活支援、及び④ショートステイ事業を行う事業です。大田区は人口73万人の巨大な特別区ですが、単科の精神病院は1か所(62床)しかなく、入院が必要になった方の多くは、三鷹市、府中市や川崎市、練馬区、板橋区などの遠方の病院に入院になります。そのため、ご本人の体調が回復し退院できるようになっても、ご自宅への退院の準備や、グループホーム探しなどが一人では難しく、退院に困難があります。国の制度で『地域移行支援給付』という事業もありますが、近くの病院も遠くの病院も給付額は一緒で、補助を受けることなく運営している事業所が、移動に時間が掛かる遠方の病院での支援を行うことは、財政的に非常に困難なのが実情です。当事業は補助事業という利点を生かして、遠方の方や退院の準備に時間のかかる方の支援を丁寧に行っています。最近都内で同様の事業を始める自治体が多いことは、給付のみでは退院支援が難しいことを示しています。今後は、ピアスタッフとの協働を進めていく事が課題と考えています。

自立生活援助はるまち

訪問など	545件	同行	105件	年度末利用者	16人
------	------	----	------	--------	-----

3年目を無事に終えることができました。2022年度の新規利用者の特徴としては、親が亡くなった、もしくは入所したなどの理由で独居になられた方が目立ちました。地区担当保健師や病院からの紹介が多かったです。また、もともと地域で暮らしていた方で利用される方は生活のアセスメント目的が多かったです。生活に楽しみを見つけていくことも課題としました。

ホームプシケ

入居者数	29人(3月末)							
2022年度退居者	10名	退居後の状況	アパートでの単身暮らし	2名	他施設	6名	入院	2名
2022年度新規入居者	11名	入居前の状況	入所施設	1名	地域から	2名	入院	8名

2022年度も新型コロナの影響が続きました。年間を通して入居者、職員が陽性となったり、職員の家族が陽性となり勤務調整が必要となる時期もありました。感染状況が落ち着いてきた年度後半も感染対策を続けながら、日常生活全般の支援を続けました。

各ユニットでの空室の解消を進めてきましたが、病院でのコロナ発生によりケア会議や体験入居を延期せざるを得ない状況もあり、入居が遅れてしまうこともありました。ここ数年は特に女性の空室が多く、問合せ自体も男性の方が多く見受けられました。また、入居申し込みをされた後、通常の入居選考会の開催を経ずに先に体験入居の利用を進めることでアセスメントに役立てる流れを整えました。

建物老朽化が顕著であったメゾンまちについては、法人内各事業所より参加メンバーを募り、PTを立ち上げて議論していくこととなりました。PTの中で、建物の修繕可否、別事業での活用の可能性、撤退後の運営形態など幅広く意見を出し合いました。最終的に撤退する方向が固まり、大家、不動産屋との協議の上、2023年3月末でメゾンまちユニットを廃止しました。

年明けより、メゾンまちの移転または新規ユニットの増設を求めて不動産屋まわりを始めましたが、年度内に新たな物件を確保することはできませんでした。年度をまたいで早期の新ユニット立ち上げを目指します。

クッキングワーク街の駅

利用登録者数	35名	1日平均通所者	10.2名	平均年齢	50歳	開所日数	240日
通所ペース	週1日…12名、週2日…11名、週3日…8名、週4日…4名						
配食サービス全体	実施日数	236日	食数	年間	8,913食	1日平均	37.8食
昼食弁当		143日		年間	6,716食	1日平均	47.0食
夕食弁当		93日		年間	2,197食	1日平均	23.5食
作業内容	調理・配達・回収・パウンドケーキ作り・ポスティング・洗い物など						

2022年度で事業所開設から10年目、登録者数は35名(新規利用者4名、退所者5名)となりました。登録人数は維持していますが、利用者の高齢化、親の高齢化による介護などで通所日数を減らしたり、休みが続いたりする利用者も増えてきました。作業だけでなく居場所的な役割を担う場所としてのニーズが出てきていると感じます。

また、2022年度は調理作業メンバーから調理パートとして2名の当事者を雇うことが出来ました。引き続き準スタッフ的な役割を担える利用者を増やしていければと考えています。

配食サービスでは注文数の大きな落ち込みはありませんでしたが、夕食の食数が前年度より減少しました。今後は夕食の食数を安定させる必要があります。パウンドケーキについては2022年9月より毎週水曜日に店頭販売を開始することができました。

今年度も引き続き、配食サービス・パウンドケーキの売り上げを伸ばしていけるように皆で力を合わせていきたいと思えます。

2022年度 決算報告（法人全体）

法人単位事業活動計算書
 (自)令和 4年 4月 1日(至)令和 5年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	4,347,735	4,070,675	277,060
	障害福祉サービス等事業収益	225,569,540	225,773,406	△ 203,866
	経常経費寄附金収益	1,015,000	204,000	811,000
	サービス活動収益計(1)	230,932,275	230,048,081	884,194
	費用			
	人件費	161,624,770	164,432,058	△ 2,807,288
事業費	7,755,775	6,459,656	1,296,119	
事務費	54,314,794	55,016,307	△ 701,513	
就労支援事業費用	4,319,538	3,839,440	480,098	
減価償却費	6,256,130	6,323,595	△ 67,465	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 3,149,690	△ 3,149,690	0	
サービス活動費用計(2)	231,121,317	232,921,366	△ 1,800,049	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 189,042	△ 2,873,285	2,684,243	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	1,839	4,847	△ 3,008
	その他のサービス活動外収益	465,727	316,648	149,079
	サービス活動外収益計(4)	467,566	321,495	146,071
	費用			
その他のサービス活動外費用		131,380	△ 131,380	
サービス活動外費用計(5)		131,380	△ 131,380	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	467,566	190,115	277,451	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	278,524	△ 2,683,170	2,961,694	
特別増減の部	収益			
	特別収益計(8)	0	0	0
	費用			
	固定資産売却損・処分損	508,353		508,353
国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 159,733		△ 159,733	
特別費用計(9)	348,620	0	348,620	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 348,620	0	△ 348,620	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 70,096	△ 2,683,170	2,613,074	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	106,388,164	109,302,569	△ 2,914,405
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	106,318,068	106,619,399	△ 301,331
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)			
	その他の積立金積立額(16)		231,235	△ 231,235
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	106,318,068	106,388,164	△ 70,096	

財産目録

2023年3月31日

I 資産の部		II 負債の部	
1、流動資産	118,499,454	1、流動負債	19,787,260
現金預金	97,953,268	未払金	11,678,077
未収金	20,297,726	預り金	972,773
立替金	28,905	賞与引当金	7,136,410
前払金	219,434	2、固定負債	0
仮払金	121		
2、固定資産	41,652,334		
基本財産	10,000,000		
その他の固定資産	31,652,334		
資産合計	160,151,788	負債合計	19,787,260
差引純資産			140,364,528

新役員紹介

2023年6月15日の評議員会にて、法人役員の任期終了に伴い、役員の改選が行われました。理事の小山廣子様
が退任され、評議員だった濱洋子様が理事、新たに平井勝様が評議員に就任いたしました。
今後ともよろしくお願いいたします。

小山廣子様 長い間ありがとうございました。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

異動職員紹介

谷岸佳子

地域生活安定化支援事業から4年ぶりにホームプシケに戻ってきました。地域移行に携わって、グループホーム
が地域で果たす役割の大切さを実感しています。スタッフのチームワークで、より良いホームにできればと思
います。

村上瑞穂

クッキングワーク街の駅では5年間大変お世話になりました。ホーム蒲田に異動し業務内容や環境の変化にま
だまだ戸惑う毎日ですが、入居者の皆さんとは挨拶や雑談を通して少しずつ打ち解けていければと思ってい
ます。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋真奈美

入職当時、私はメゾンしろの世話人を担当させて頂きました。世話人として右も左も分からない私を入居者
の方々に助けてもらい支えてもらいました。世話人の頃の経験を忘れずに、安定化でも多くの方が住み慣れた地域
で生活を送れるようにお手伝いしていきたいと思っています。

復帰職員紹介

金裕理

育休明けはクッキングワーク街の駅の配属になりました。私にとって街の駅での時間は育児から解放される貴重
なひと時です。メンバーの方々と共に働きながら、改めて働く意味を考えさせられます。調理スタッフ、配達ス
タッフの連携プレイで毎日見事なお弁当を作り上げる皆さんには頭が下がります。私もその一員になれて(?)光
榮です。まだまだ至らないことがたくさんありますが、メンバーやスタッフと対話を重ね、毎日汗水たらしな
がら日々精進したいと思っています。

お知らせ

法人ホームページがリニューアルしました！ぜひご覧ください。

HP : <http://www.koujiya-center/>

こうじゃ生活支援センター

こうじゃセンターまつりのお知らせ

こうじゃ生活支援センターのおまつりが開催されます。当日予定は右記のとおりです。

昨年度のこうじゃセンターまつりはコロナの影響により、残念ながら開催中止となりました。

今年も引き続き感染症対策をしたうえで、みんなで楽しめるおまつりにしていきたいと考えています。

また、同日は「ふくしのまち糶谷」として糶谷地区にある福祉・地域施設も合同でおまつりが開催されます。小学生以下のお子様を対象に各施設をめぐって景品がもらえるスタンプラリーを実施しますので、ぜひ近隣のお祭り会場にもお立ち寄りください。

こうじゃセンターまつり 予定表

8月20日 日曜日

10:00～ 打ち水

11:00～ 開会式・音楽演奏

11:20～ 当事者発表

13:00～ 小学生以下対象

レジンアクセサリィ・

プラバン作り体験

15:00 閉会式・音楽演奏

終日：作業所からお菓子・飲み物販売

アクセサリィ・小物の販売

スタンプラリー(小学生以下対象)

かまた生活支援センター

コロナが感染症の分類で5類相当に引き下げられ、かまた生活支援センターでも3年ぶりにコロナ前の状況に近づけるように、プログラムを順次再開しております。ただ、再開には感染に注意しつつ、慎重にする必要があります。利用者の皆さんとミーティングを重ねながら、プログラムを再開して参りました。

「麻雀」の再開では、麻雀に参加していたセンター利用者さんを中心に、消毒を中心として、より安全に麻雀をやるための「麻雀の心得」を参加者で検討して決め、麻雀卓の脇の壁に掲示して麻雀を楽しむ際の指針となっております。その他、将棋、囲碁をパーティーションを外したゲーム専用のテーブルを作って実施したり、お茶会を再開したり、音楽会を音楽療法の先生主導で行わず、利用者さん主体で実施することとなっております。

新しく、生活に役立つ「SST」を実施して欲しいという声が多かったので、実施しております。これが参考になって、生活が豊かになれば、と思っております。

今後もプログラムの再開や、さらに新しいプログラムの導入も、毎月第3土曜日に行っています。運営ミーティングで順次検討していく方向で考えております。

そして、秋には、地域の方々と一緒に行う「地域交流活動」を何らかの形で実施できればと考えております。



(散歩の参加者)



クッキングワーク街の駅 ～柴又散策レク～

クッキングワーク街の駅では6月16日（金）に柴又散策レクを行いました。

柴又までは京急蒲田駅に9時に集合し、電車で約1時間の行程でした。

10名のメンバーさんが参加して散策を楽しみました。

柴又では山田洋二ミュージアム・帝釈天見学、その後帝釈天参道で昼食をとり、それぞれがお土産などを買いました。

当日は天気恵まれ、気温30度以上の中での散策になりましたが、皆さん体調を崩すこともなく無事に帰ってくる事が出来ました。

参加したメンバーさんからは「寅さんをもうちょっと知っていれば楽しめたかな。全体的には楽しかった。」「以前柴又には来たことがあったので懐かしかった。」「帝釈天が思ったより小さかった。」等の感想をいただきました。



地域生活安定化支援事業（自立生活援助事業はるまち）

自立生活援助事業はるまちなりの近況をお伝えいたします。はるまちなりの対象の方は、病院やグループホームを出られて一人暮らしをされている方が主です。必要な手続きも多く、いろいろ確認したり、あちこち出向いたりしています。また生活面では片付けやご飯のことなど、しなくてはならないことが満載です。そんな中で、楽しみがあるといいな…など、話が出て、散策がてら足湯を楽しむことにしました。利用者さんからの言葉です。「あったかいし、眺めもよかったし、落ち着いてくつろげました」。近くにできていたのは知っていたのですが、なかなか行く機会もなかったのがよかったです。また別の利用者さんとは猫カフェへ。「自分へのご褒美。楽しかったです。また行きたいです。」こちらも楽しんでしまいました。



ホームブシケ

今回は支援をしていた中で起きた珍エピソードについてまとめてみました。日々グループホームで入居者の皆様と生活していると、まさかこんなことが！ということが多々起こります。その中の一部をご紹介しますと思います。

◎入居者の同行中に全然知らない方から道案内をお願いされる。

病院や作業所へ同行している際中、「〇〇はどこにあるのでしょうか？」と後ろから声掛けをされることがあります。同行に集中しているので一瞬頭が真っ白になりますが、どうにか我に返り、道や場所をお伝えするよう努めています。そのあいだ入居者の方はそっと横にいらっしゃるのですが、大体温かく見守ってくださっているので、恥ずかしいような誇らしい気持ちになります。

◎すべてのタイミングが重なる。

入居者が事務所に「相談があります」と来て話をし始めた直後、他の入居者も同じく「急いで聞きたいことが」と来られることがあります。それなら順番に対応しますとお伝えするのですが、そう答える前に電話が鳴り、玄関のインターホンが鳴り…。基本的に1人勤務が多い筆者は何度もこのパターンに遭遇しています。阿修羅のように顔や腕が複数あれば問題ないのですが、表情だけが阿修羅になってしまいます。落ち着いて対応できるよう今後も精進してまいります。



「CSにしかまた」のこのごろ

最初のころは、身近な人に来ていただきましたが、最近は地域の方の来店が増えてきました。多様な行事の結果と思いますが、ミニバザーの時は雨にも関わらず、子ども連れでにぎわいました。子ども向けの雑貨も取り揃えてきましたが、なんとといっても100円から500円の衣類です。家族会や地域の方からや、時にはブランド品の提供もあり、顧客には評判です。また、高齢者向けの「スマホ個別相談会」を地域包括センターなどの主催で行い、西蒲田地域のかたの参加もあり、CSの存在が周知されてきた感があります。フードドライブへの理解も進んでいます。最近では就労移行事業所から当事者メンバーがシフトに入っています。一般就労を前にして、CSでの様々な出会いが必要と、事業所からのお話ですすめています。精神障害者理解を広げ、また地域の人に役立つ居場所として活動していきます。(運営委員会 川崎)

賛助会より

2023年7月17日(月)総会を開催しました。

○昨年度2022年度事業報告

- (1) 感染3年目迎え新型コロナ感染者数の一定の減少により、2023年の5月8日以降、コロナは第5類に変更となりました。しかし、感染者の拡大はいまだ継続して、第9波とも言われており、収束には至っておりません。
- (2) 対面での総会開催は、2020年の総会以来3年ぶりとなります。
対面での役員会も久しぶりで、6月12日(月)に昨年度2022年の活動報告および決算報告の承認と、今年度2023年度の事業方針と予算を話し合いました。
- (3) 昨年度は、一人芝居「私 精神科医」への、協力、協賛を行いました。法人プシケおたへの財政的支援は、30万円の寄付を執行しました。

○今年度2023年度の事業方針

- (1) 2023年度の事業方針は、コロナ感染の推移も見ながら、滝山病院での不適切な医療(暴行、身体拘束、死亡退院)の問題点についての学習や他団体とも連携した普及啓発の取り組みを進めます。賛助会内部で、滝山病院問題を学び、さらに患者さんたちが退院して地域生活に移行するため、地域で準備しなければならないこと、その中で今の力量の中で私たちができることを確認し、地域での取り組みを広げていきたいと思えます。
- (2) また法人プシケおたへの寄付は昨年同様に、30万円の寄付を実施します。
- (3) プシケおたの職員に対しても、賛助会員に加入していただけるよう、会員拡大に力を注ぎます。
- (4) 役員体制の若返りを目指します。

2022年度決算 (2022年4月1日～2023年3月31日)

収 入	2021年度よりの繰越金	387,208	
	個人会員会費72名(107口)	214,000	
	団体会員収入 3団体(3口)	30,000	
	カンパその他の雑収入	9,000	
	合 計	640,208	
支 出	法人プシケへの寄付		300,000
	総会・イベント費等		
	一人芝居「私 精神科医」 広告協賛金		6,000
	振込書用紙代		0
	振込料金		8,316
	郵券・送料等		0
	2023年度への繰越金		325,892
	合 計		640,208

2023年度予算 (2023年4月1日～2024年3月31日)

収 入	個人会員収入(100口×2,000)	200,000	
	団体会員収入(3口×10,000)	30,000	
	カンパその他の雑収入	10,000	
	2022年度よりの繰越金	325,892	
	合 計	565,892	
支 出	法人プシケへの寄付		300,000
	総会・イベント費等		
	講演謝礼など		10,000
	茶菓代		2,000
	その他		
	振込書用紙代		1,720
	振込料金		10,000
郵券・送料等		10,000	
予備費		232,172	
	合 計		565,892

プシケおた賛助会費を2022年12月19日から2023年7月17日までに納入して頂いた方(敬称略)

22年度分 個人会員: 2名

23年度分 個人会費: 13名

♡心より御礼申し上げます。酷暑の中、ご健康とご多幸を祈念申し上げます♡

編集後記

プシケおたニュースをお読みいただきありがとうございます。今年度から広報を担当することになりました。この夏は暑くて溶けてしまいそうな日々が続いています。そんな忙しい中、原稿を書いていただきありがとうございます。こちらの立場になり実感いたしました。コロナ禍にはできなかったこと動けなかったことなどたくさんあります。世界情勢も目まぐるしく動いています。どうやら「風」の時代だそうです。新しい風を期待します。(渡辺)